

大郷町の皆さまへ

社会福祉法人大郷町社会福祉協議会

会長 伊藤 榮吉



平素より大郷町社会福祉協議会の事業運営に対しまして、町民の皆さま、関係機関の皆さまから温かいご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

大郷町は、のどかな田園風景と吉田川の清流に抱かれ、豊かな自然と人の温もりに恵まれた地域です。東日本大震災、令和元年台風19号豪雨災害など、度重なる自然災害の試練を乗り越えてきた私たちは、「困ったときはお互いさま」という精神を大切にしながら歩んでまいりました。しかし近年、少子高齢化による人口減少が進行し、地域のつながりの希薄化といった課題が一層顕在化しており、町民一人ひとりの暮らしを支える地域福祉の重要性が増しています。

このたび策定いたしました「大郷町地域福祉活動計画」は、町の「地域福祉計画」と車の両輪のように連動しながら、誰もが住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らし続けられることを目指すものです。策定にあたっては、町民や中学生を対象としたアンケート調査を通じ、幅広い世代の皆さまから貴重なご意見をいただきました。「孤立しない地域」「みんなが優しくしてくれる地域」「子供から大人まで、さまざまな年齢層が暮らし続けたいと思う町」といった声は、今後の地域づくりに向けて私たちが進む方向を示す大切な道しるべとなります。

本計画では、①『『気』くばりは人をつなぎ地域をつなぐ』②『みんなでつくろう！お節介の架け橋づくり』③『私の声『届ける』・『届く』・『受け取れる』』④『“魔法の言葉”で笑顔あふれる地域』を柱に据えています。その実現には、行政や関係機関だけでなく、町民一人ひとりの「小さなお節介」や「ちょっとした声がけ」といった日常の行動が欠かせません。

「福祉は特別なことではなく、暮らしそのものの中にある」その思いを胸に、私たち大郷町社会福祉協議会は、町民の皆さまと共に地域福祉を進めてまいります。この計画が、未来を担う子どもから、人生の大先輩である高齢者まで、すべての世代にとって安心と希望をもたらす礎となることを祈念して挨拶とさせていただきます。

いつもあなたのそばに

大郷町地域福祉活動計画策定委員会
委員長 本間照雄（地域福祉研究所）



『大郷町地域福祉活動計画』これって、何が書いてあるの？だれの計画なの？等々、ページをめくる前に疑問符だらけになるかもしれません。

皆さん、ページを開く前に、表題をじっくり読んでみてください。できれば、声を出して読んでみてください。そして、「お互いさま」「笑顔」「はぐくむ」「何気ない日常」「つなげる」「架け橋」の言葉を口ずさみながら、大郷町で暮らす皆さんの日常や隣近所

の方々の顔や声を思い出してみてください。

様々な課題を抱えながらも日々懸命に暮らしている人たち、一生懸命子育てそして仕事に励んでいるお母さんお父さん、元気に学校に通う子どもたち、地域のためにと今日も走り回っている役員さん。様々な人たちが自分ごと・人ごとの分け隔てなく、懸命に「今日」を積み重ねている様子が見えてきませんか。そして、さらによく見ると、決して一人で孤軍奮闘しているのではなく、様々な関わりの中で手に手を取り、笑顔を見せていませんか。

こうしたことを思い浮かべることができたら、もう既にこの冊子の半分は読んだのと同じです。残り半分は、今感じていることを胸に秘めながら読み進めてください。きっと、これまでの自分の振る舞いがどこかに書かれています。心配事を抱えている方に教えてあげたくなるようなことが書かれています。また、一人では難しいから、仲間を募ってみようか。そう思った時、もう一度この冊子を開いてみてください。そこには、具体的にその方法やどこに相談すれば良いのかが書いてあります。

この冊子『大郷町地域福祉活動計画』には、大きく二つの大切なことが書いてあります。その一は、暮らしている中で、何らかの不安ごとや気がかりなことが生じたときに、その解決のための方法やどこに相談すれば良いかの『手引き書』的な役割です。その二は、今後、どこに向かって活動をしていけば良いのか迷ったときの『指針となる』役割です。こうした二つの役割は、住民一人ひとりが担い手となって『地域を耕す』時に大切な道しるべとなって私たちに励ましてくれることでしょう。

本書『大郷町地域福祉活動計画』に示している四つの推進目標は、大郷町民一人ひとりが参画することで実現します。誰一人欠くことはできません。小さな力、些細な想い、膨らむ夢、そのすべてを編み込んで広くて強い布に織り込まれます。その布で大郷町民を、優しく包み込むのです。大雪大雨の時も、強い風が吹く時も、日照りのような時も、私たちに優しく包み込み守ってくれます。ふと気づくと誰かが寄り添い微笑んでいます。そんな大郷町の地域福祉をみんなでつくりあげていく時、常にあなたのそばにいるのが、この『大郷町地域福祉活動計画』です。

目 次

はじめに

地域福祉活動計画の位置づけ	2
---------------	---

第1章 わたしたちはこのような町で暮らしています

第1節 大郷町の地域情報	4
第2節 大郷町の歴史・地域文化	5

第2章 大郷町社会福祉協議会の全体像を見てみましょう

第1節 地域福祉を推進する役割を担う町民参画団体	7
第2節 大郷町社会福祉協議会の事業費	8
第3節 大郷町社会福祉協議会体系図	9
第4節 大郷町社会福祉協議会事業一覧	10

第3章 大郷町社会福祉協議会が掲げる未来への推進

第1節 大郷町社会福祉協議会が大切にしている基本的な考え方	17
第2節 地域福祉活動計画推進目標	18
基本目標1 『気』くばりは人をつなぎ地域をつなぐ	19
基本目標2 みんなでつくろう！お節介の架け橋づくり	21
基本目標3 私の声『届ける』・『届く』・『受け取れる』	23
基本目標4 “魔法の言葉”で笑顔あふれる地域	25

資料編

1) アンケート調査から見えた「地域の声」	28
2) 大郷町地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	44
3) 大郷町地域福祉活動計画策定のプロセス	45
4) 大郷町地域福祉活動計画策定委員名簿	48

地域福祉活動計画の位置づけ

社会福祉協議会（以下、「社協」という。）は、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした、営利を目的としない民間組織です。1951（昭和26）年に制定された社会福祉事業法（現在の「社会福祉法」）に基づき設置されています。社協は、社会福祉法に基づき、全国、都道府県、市区町村単位にひとつ設置されています。その名称が示すように、地域住民を始めとして、民生委員・児童委員、社会福祉施設・社会福祉法人等の社会福祉関係者、保健・医療・教育・その他の関係団体で組織している民間団体です。こうした様々な人々、団体の参画、協力の基に、住み慣れた地域で安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現を目指した様々な活動を行い、地域福祉の推進を使命としています。

社協は、全国的な取り組みから地域の特性に応じた活動まで、様々な場面で地域福祉の増進に取り組み、住民に最も身近な存在として活動しています。社協の事業は、地域の特性を創意工夫をこらした独自の事業に取り組むことで、初めて本来の住民主体の本質が発揮されるものと考えます。こうした考え方から、常に『地域』に軸足を置いた活動に努めています。

地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係

大郷町（行政）は地域福祉計画（総括的計画）、大郷町社会福祉協議会（以下、文章中は「大郷町社協」という。）は地域福祉活動計画（実践的計画）をそれぞれの視点で策定します。この二つの計画は、目指すべき地域福祉の姿を共有し、おのおのの強みを活かして役割分担をし、地域住民の普段の暮らしや人のつながりを広げる活動を推進していくものです。

社協が策定する地域福祉活動計画は、社会福祉法第109条の規定に基づき、社協の活動指針を明確にします。この計画は、住民に策定過程や実践過程への主体的な関わりを求め、地域全体が一丸となって地域における様々な課題への取り組みや気づきを発見することにより、住民力の向上、地域の活性化、住民個々の彩りある暮らしに繋がることを期待しています。

地域福祉活動計画の期間

本計画の期間は、令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）までの5年間とします。なお、社会情勢や町の状況により、必要に応じて見直しを行うものとします。

第1章

わたしたちはこのような町で
暮らしています

大郷町の地域情報

大郷町の直近の人口（令和7年9月末）は7,390人、世帯数は2,988世帯で、一世帯あたり人員は2.4人です。人口全体で、年少人口が9.6%、生産年齢人口が49.7%となっています。高齢者と言われる65歳以上の人口が全体の4割で、高齢化率は40.7%（3,009人）。そのうち21.5%（1,590人）が75歳以上となっており、年々増加傾向にあります。

◎各地区年代別人口 資料：住民基本台帳調査（令和7年（2025年）9月末現在）【単位：人】

No.	行政区	0～14歳 (年少人口)	15～64歳 (生産年齢人口)	65歳以上（高齢人口）		総数	高齢化率
					内75歳以上		
1	羽 生	39	270	249	144	558	44.6%
2	山 崎	24	197	207	94	428	48.4%
3	味 明	35	213	197	109	445	44.3%
4	不 来 内	4	73	77	42	154	50.0%
5	川 内	45	242	173	97	460	37.6%
6	東 成 田	13	143	106	62	262	40.5%
7	中 村	194	836	504	271	1534	32.9%
8	鶉 崎	79	206	117	64	402	29.1%
9	土 橋	21	117	110	54	248	44.4%
10	長 崎	85	320	192	87	597	32.2%
11	丸 山	38	175	128	62	341	37.5%
12	中 粕 川	12	105	100	49	217	46.1%
13	石 原	10	80	80	33	170	47.1%
14	木ノ崎	17	73	58	39	148	39.2%
15	土手崎	5	34	37	21	76	48.7%
16	成田川	17	51	86	48	154	55.8%
17	上 郷	14	91	88	52	193	45.6%
18	上 村	11	72	94	43	177	53.1%
19	上 町	23	104	92	53	219	42.0%
20	下 町	7	129	141	72	277	50.9%
21	吉ヶ沢	6	73	84	43	163	51.5%
22	貝柄塚	10	68	89	51	167	53.3%
	計	709	3,672	3,009	1,590	7,390	40.7%

全体	0～14歳 (年少人口)	15～64歳 (生産年齢人口)	65歳以上（高齢人口）		総数	高齢化率
				75歳以上		
男 性	363	1,998	1,348	652	3,709	36.3%
女 性	346	1,674	1,661	938	3,681	45.1%
合 計	709	3,672	3,009	1,590	7,390	40.7%

大郷町の歴史・地域文化

大郷町は、1954年（昭和29年）に大谷村・粕川村・大松沢村が合併して大郷村が発足し、1959年（昭和34年）に町制を施行して現在の姿となりました。宮城県のほぼ中央に位置し、鳴瀬川の支流である吉田川がゆるやかに流れるこの地は、古くから水と緑に恵まれた田園の町として知られています。

しかし、その豊かな自然の裏では、幾度もの水害に見舞われた歴史があります。度重なる大雨や洪水に苦しみながらも、先人たちは力を合わせて堤防や水路を整え土地を耕し、自然と共に生きる知恵を培ってきました。こうした努力の積み重ねが、現在の穏やかで美しい田園風景をつくり出しています。今も町を包む広大な田畑は、世代を超えて守られてきた暮らしの証であり、「自然が豊か」「空気がきれい」「お米がおいしい」と語られる大郷町の誇りとなっています。

この地に根づく“助け合いの心”は、こうした自然災害の猛威と共に生きる知恵^{※1}として受け継がれた、大郷町の大切な文化です。田植えや稲刈りの時期には互いに手を貸し合い、日常生活では「契約講」「隣組」「観音講」などの小さなつながりが、自然に支え合う仕組みとして生活の中に溶け込み受け継がれてきました。困ったときは声をかけ合い、喜びは分かち合う。そうした暮らしの知恵^{※1}が、地域の絆を支えてきたのです。

また、各地区では盆踊りや秋祭り、どんと祭など、神社や寺院を中心とした行事が、今でも大切に守られています。こうした文化は、お祭りとして結実した私たちの心の拠り所であり、私たちの“助け合いの心”を内に秘めた智慧^{※2}なのです。



▲ 昭和 58 年 羽生天神社の春祭りで神輿が練り歩く。



▲ 昭和 61 年の 8.5 豪雨 救助ボートが行く土手崎・三十丁地区の通り。

※1 知恵…物事の筋道を立て、計画し、正しく処理していく能力。

※2 智慧…物事をありのままに把握し、真理を見極める認識力。

第2章

大郷町社会福祉協議会の
全体像を見てみましょう

地域福祉を推進する役割を担う町民参画団体

地域福祉の推進のためには、地域と関わりを持つすべての人や団体、企業、学校などが協働して取り組む必要があります。地域のことを考え、地域に対して帰属意識を持つとともに、それぞれの得意分野を活かしながら積極的に行動し、強くつながり、連携、協働していくことが大切です。

下記の図は、「地域福祉を推進する」多くの人々・団体の『輪』と『和』の中で、笑顔溢れる『支え合いの地域づくり』が築かれていくことを示したものです。



大郷町社会福祉協議会の事業費

社協が地域活動を進める上で貴重な財源となるのが社協会費です。大郷町社協においては、全世帯を対象に、年間 1,000 円の会費の協力を頂戴していますが、これらの会費は、大郷町社協事業（P10参照）を展開し、各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや地域活動支援、共同募金運動への協力等に使われます。こうした費用は、誰もが住み慣れた地域で心身ともに健康で暮らせるよう、様々な角度から仕掛けづくりを展開し、住民や関係機関との協働により、目に見える、また、目には見えにくい安心安全のための地域支援事業を展開する大切な財源となっています。

大郷町社会福祉協議会の主な財源

○社協会費

町内の全世帯及び企業・団体等よりご賛同いただいた会費は、大郷町社協で実施する地域支援事業の財源となっています。

- 普通会費（世帯の方）：1 □ 1,000 円
- 賛助会費（特に社協事業に賛同いただける方）：1 □ 1,000 円
- 団体会費（企業・団体等の方）：1 □ 5,000 円

○共同募金配分金

共同募金運動に寄せられた募金による配分金は、社会福祉事業や地域歳末たすけあい運動の財源になっています。

○寄付金

町内外の皆様から寄付金をいただいています。（寄託者の意思を尊重し活用しています。）

○補助金

法人運営事業（人件費）については大郷町から補助金が交付されています。

○受託金

大郷町からの委託事業を進めるために受託金を受けています。

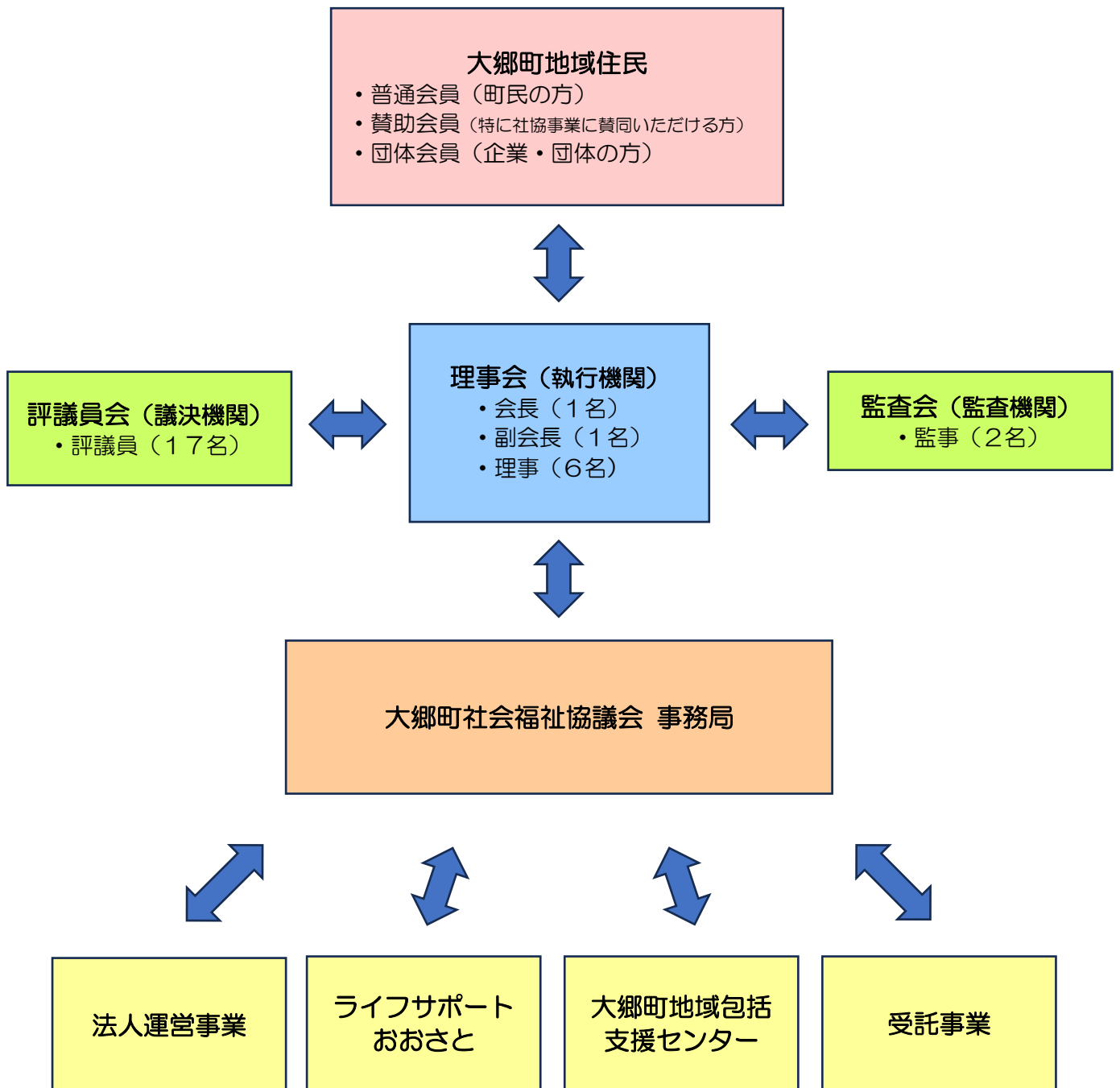
○介護報酬

介護保険事業等の実施に伴う介護報酬収入があります。

○その他

福祉有償運送や事業実施に伴う参加費などの収入があります。

大郷町社会福祉協議会体系図



◇ 連絡先 ◇

- 大郷町社会福祉協議会 TEL022-359-2753 FAX022-359-4896
- ライフサポートおおさと TEL022-359-4886 FAX022-359-4896
- 大郷町地域包括支援センター TEL022-341-1414 FAX022-359-4896

大郷町社会福祉協議会事業一覧

◆法人運営事業

理事会・評議員会・監査会の開催、法人全体の会計管理、職員の福利厚生、人材育成

地域支援事業

○男の料理教室

30歳以上の男性を対象とし、料理を通じて男性同士の地域内での仲間づくりを目的に実施しています。

○介護者のつどい

在宅で介護をしているご家族の慰労・情報交換をするための事業です。

○ほのぼの会

1人暮らし高齢者の交流事業です。レクリエーションや鑑賞、制作などを行う他、年に1回はお出かけ会も実施しています。

○福祉有償運送事業

要支援・要介護・障害等の認定を受けている方に対する有償の移送サービスです。
(事前登録が必要) ライフサポートおおさとが実施しています。

福祉教育事業

○次世代育成事業

学校における児童の福祉教育に協力するために、小中学校及び幼稚園に助成金を支出しています。

○福祉体験事業

車いすや白杖の体験、認知症サポーター養成講座などを実施し、地域福祉に対する意識の向上と理解を図っています。

○敬老意欲高揚関係事業

9月の敬老の日に合わせ、おじいちゃんおばあちゃんを題材に小学5、6年生には作文を、小学1、2年生には絵の募集をしています。

ボランティア活動推進事業

○ボランティアセンター運営

ボランティアをしたい方、必要な方をつなげるサポートをしています。その他、ボランティアに関する相談や研修も実施しています。「ボランティアをしてみたいけど、どうはじめてらいいのだろう？」など、気軽にご相談ください。災害時は災害ボランティアセンターを運営します。

相談事業・生活困窮者対策・福祉用具貸し出し

○生活安定資金貸付事業

失業等による減収で一時的に生活にお困りの方に対して、生活再建のために緊急的な貸付を行う大郷町社協独自の貸付制度です。

○生活福祉資金貸付事業

収入の少ない世帯、障害者及び高齢者が属する世帯に対して、資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、その世帯の生活の安定と経済的自立を図ることを目的とした宮城県社会福祉協議会の貸付制度です。各市町村社会福祉協議会が相談窓口となっています。

○日常生活自立支援事業（まもりーぶ）

認知症の方や障害（知的・精神）など、何らかの理由により日常生活に不安をお持ちの方の様々な相談に応じ、住み慣れた地域において安心した生活が送れるよう金銭管理・郵便物の確認などをお手伝いする制度です。

○フードバンク事業

生活困窮などを理由に、一時的な食糧支援が必要な世帯に対する食糧の支援を行っています。

○福祉用具貸し出し

急なケガが必要となった方や介護保険で借りられない方などに、1か月無償で車いすの貸し出しをしています。

福祉団体・関係機関との連絡調整

○行政との連携

行政及び大郷町社協・大郷町地域包括支援センターと月1回地域ケア会議を行い、町内の要支援者に対する対応や情報共有を行っています。

○福祉団体との連携

事務局を担当している団体

- ・大郷町民生委員児童委員協議会
- ・大郷町老人クラブ連合会
- ・大郷町遺族会
- ・大郷町手をつなぐ親の会
- ・大郷町人権擁護委員会

大郷町共同募金委員会

募金活動でいただいた寄付は、子ども、高齢者、障害者などを支援するさまざまな福祉活動や、災害時の被災者支援に役立てられています。

○赤い羽根共同募金

毎年10月1日～約半年間、募金運動を実施しており、地域福祉活動や福祉課題の解決のために、募金総額の7割は大郷町、3割は宮城県で活用されています。また、災害が発生したときは、全国の被災地の災害ボランティアセンターや災害支援にも役立てられています。

○地域歳末たすけあい運動

毎年12月1日～1か月間募金運動を実施しており、大郷町内の寝たきり高齢者や施設入居者、福祉団体等が地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな福祉活動を行うことを目的に行っています。

◆介護保険事業

訪問介護事業（ライフサポートおおさと）

○訪問介護事業

要支援・要介護認定を受けている方の生活及び身体の支援を行っています。

◆受託事業

包括的支援事業

大郷町地域包括支援センターを設置し、65歳以上の高齢者やそのご家族をサポートするため、介護や医療、日常生活の相談など包括的に支援する事業。

○総合相談支援

高齢者が地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者の心身の状況や生活の実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、機関又は制度につなげるなど、適切な支援を実施します。

○高齢者戸別訪問

65歳以上の単身高齢者、高齢世帯のお宅を訪問し、生活の様子や健康状態、お困りごとがないかなどのお話を伺い、必要な情報提供や支援につなげます。

○地域ケア会議

大郷町福祉サービスの利用検討、個別ケースの検討、地域課題の発見や共有を行います。

○包括的・継続的ケアマネジメント支援

高齢者の方の支援にあたる各関係機関が連携・協働できる体制を整備し、高齢者の方が住み慣れた地域で安心して生活を送り続けられるよう必要な支援を、切れ目なく継続的に提供します。

○介護予防ケアマネジメント支援

高齢者の方々が、要介護状態になることを予防し、たとえ要支援・要介護状態になったとしても、その悪化をできるだけ防ぎ、可能な限り自立した日常生活を送れるように支援します。

○権利擁護

高齢者の方々が安心して日常生活が送れるよう、高齢者の権利や財産、尊厳ある暮らしをまもるための相談・情報提供を行っています。「高齢者の虐待防止」や、「消費者被害防止」に取り組み、実際に事例が生じた時には関係機関と連携しながら対応を行っています。

○成年後見制度申し立て支援

判断能力が不十分な方を法的に保護し、財産管理や契約などの法律行為を支援する制度です。申立て相談や申し立て支援をします。

○認知症初期集中支援チーム

「認知症初期集中支援チーム」は、複数の専門職が家族の訴え等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、聞き取り調査、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的（おおむね6か月）に行い自立生活のサポートを行います。

○認知症カフェ 喫茶ほおずき

各分館で認知症の方やそのご家族、地域住民、誰でも気軽に立ち寄れる交流の場を提供しています。

高齢者等在宅福祉事業

○配食サービス事業

週3回月・水・金の昼食の時間帯に、おおむね65歳以上の単身世帯、高齢者のみの世帯及びこれに準ずる世帯に属する高齢者、並びに心身障害者で食の自立に支援が必要な方から申請をいただき、決定となった方に対し1食250円の負担金でお弁当を配達しています。

○軽度生活援助事業

介護認定を受けていない、おおむね65歳以上の単身世帯及び高齢者世帯等で軽易な日常生活上の援助が必要な方に対する支援事業です。

支援内容は、調理、洗濯、掃除、生活必需品・食材の買い物など、生活援助や安否確認、相談助言などを行っています。

○家族介護用品支給事業

おおむね65歳以上の高齢者、または心身障害者で寝たきりもしくは認知症の状態でおむつ他介護用品を必要とする方に対する支援事業です。申請をいただき、決定となった方に対し、負担金300円で1か月あたり3,000円分の補助券を発行しています。

○生活相談所事業

毎月第2火曜日（第1の月も有。）に人権擁護委員と生活相談委員が相談事業を行っています。行政相談も同時開設されています。

○地域福祉ネットワーク事業

宮城県社会福祉協議会が窓口となっている「ボランティア活動総合補償制度（ボランティア保険）」について、大郷町で加入希望者の取りまとめを行っています。

健康長寿対策事業

高齢者の介護予防とともに生きがいのある生活を長く送ることができることを支援する事業。

○元気アップ教室自立体力測定

日常行っている4つの動作（歩く・体の柔らかさ・手先の動き・寝起きの動作）を年1回測定することで、自分の体の年齢を知り、体力維持の目安となります。参加者限定の日帰りお出かけ会も開催しています。

○元気アップ教室ひだまり会

各地区の分館で年3回開催しています。自宅で続けられる体操、健康維持に役立つ講話、ゲーム、おしゃべりしながらのお茶のみ会で近所の方々と楽しい時間を過ごします。

○散歩とLINEを楽しむ会

ひとりでも気軽に取り組める健康法である散歩（ウォーキング）を、継続的に取り組めるように2週間という期間で実施しています。歩数を報告することで、LINEの使い方の練習にもなります。

○健康づくり体験会

体力向上や認知症予防などの健康促進効果が期待されるニュースポーツなどの取り組みを、気軽に始められるように実施しています。

○ボウリング大会

投げる、歩く、考えるなどの動作により健康維持効果が期待されています。シニア層にも馴染みのあるボウリングを同世代で楽しむことを目的に実施しています。

日常生活体制整備事業

住み慣れた地域で生活を継続するため行政や関係機関、地域住民と連携しながら、一人ひとりの「課題」に寄り添い、支援体制の充実を図るとともに、地域全体で支え合う仕組みづくりを進める事業。

○生活支援コーディネーター戸別訪問

大郷町を大谷東部（羽生、山崎、味明、不来内、川内）・大谷西部（東成田、中村、鶉崎、土橋）・粕川（長崎、丸山、中粕川、石原、木ノ崎、土手崎）・大松沢（成田川、上郷、上村、上町、下町、吉ヶ沢、江戸沢）の4エリアに分けて戸別訪問（アウトリーチ）を実施しています。普段の暮らしの中の地域活動や地域で「困っていること」などの情報を収集し、必要な人とサービスを結ぶコーディネートを行っています。

○情報誌発行（～えん～・地域資源マップ・おおさとつなげるリーフレット）

地域資源（お店、ボランティア、居場所など）を一覧でまとめ、住民・関係機関に分かりやすく伝えます。

○地区座談会

戸別訪問で得た情報を報告する場として、さらには地域の方との交流の機会として開催しています。

○郷ここプロジェクト（寺カフェ・フォトコンテスト）

人と人とがさりげなく繋がり、町の魅力もつたえる“新しいつどいの場”づくりを目的としています。寺カフェは、町内のお寺を会場にカフェを実施しています。フォトコンテストは年1回から2回開催しています。

○地域支え合い推進協議体

住民・行政・団体が集まり、地域の困りごとや助け合いの仕組みを一緒に考える会議を開催しています。

○写経・写仏つどいの場

住民同士がつどえる場所として始まった活動で、高齢者の社会参加を促す事業となっています。

○サロン活動等支援

誰でも気軽に集まれる“居場所づくり”を応援し、活動の立ち上げをサポートします。

○地域支え合い講演会・研修会

住民同士が支え合う地域づくりのために、学びや気づきを広げる講演や研修を開催します。

○キッチンカー移動傾聴事業

キッチンカーを“地域の集いの場づくり”のきっかけに活用していただいています。

その他活動の支援

自主的に活動する方々の支援をおこなっています。

○お達者サロン

おおむね 65 歳以上の地域を限定しないサロン（お茶のみ）活動です。参加者自身がやりたいことを計画し実施しています。

○おもちゃ病院

大郷町保健センターで開催される“おやこのへや”にあわせて、年に4回おもちゃ病院を開設しています。ボランティアで活動しているおもちゃドクターが無償で壊れたおもちゃを修理します。（一部有料の場合有）

○健康まーじゃん教室

毎週金曜日に認知症予防の一環として、健康まーじゃん協会の方が講師となり、“賭けない”“飲まない”“吸わない”健康的なまーじゃん教室を開催しています。毎年体験会を実施しています。

○卓球会

初心者経験者問わず、おおむね 65 歳以上の方が月に1回、健康づくりのために卓球会を開催しています。

○つどいの場助成金

誰でも気軽に集まれる“居場所づくり”を応援し、活動費として一人あたり 200 円（上限 5,000 円）の助成を行っています。また、つどいの場を立ち上げる際の支援として、1団体あたり 30,000 円を助成しています。

第3章

大郷町社会福祉協議会が掲げる 未来への推進

大郷町社会福祉協議会が大切にしている基本的な考え方

私たちの地域では、社会生活の変化により「頼りにするなら遠くの親戚より近くの他人」が現実となっています。さらには、近隣の方々の連帯感や相互扶助意識が希薄化していることを背景に、支援が必要な人たちを地域全体で支える「地域福祉」の推進が求められています。特に、災害が身近なところで多発している今では、ますますその重要性が増しています。

これまでの福祉サービスは、特定の人のためのものと思われて来ました。この為、「福祉」というと高齢者や障がいのある人などのためにあるというイメージを強く持っている人が多かったかもしれません。しかし、年齢や障がいの有無に関わらず、すべての町民が住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、病気になったり、介護が必要になったり、子育てで悩んだりするなど、日頃の生活の中で手助けが必要になるときは多々あります。そして、こうしたことは、日々の暮らしの中で特別なことでは無く、誰にでも関わりのあることです。

今、手助けが必要な人々のみならず、町民全ての安全・安心を支え励ましていく仕組みを作るためには、専門機関、地域住民、地域福祉団体、ボランティアなど、地域に関わるすべての方々が協働することが必要不可欠です。この仕組みが特別なことではなく「当たり前のお互いさま」として地域に広がるように、大郷町社協は地域に関わるすべての方々と力を合わせて仕組みづくりを進めていきます。そして、その取り組みを町民一人ひとりの笑顔・安心・安全な暮らしにつなげていきます。

この度、大郷町社協では、アンケート調査等で町民の声を反映させた「大郷町地域福祉活動計画」を作成いたしました。地域福祉活動計画は町と連携を図りながら推進するため、「大郷町地域福祉計画」と基本理念を共有し、住民目線の関わりと住民主体の本質を大切に、次のように掲げます。

誰もが地域の中でつながり、

自分らしくいきいきと安心して暮らせるよう、

共に支え合うまち

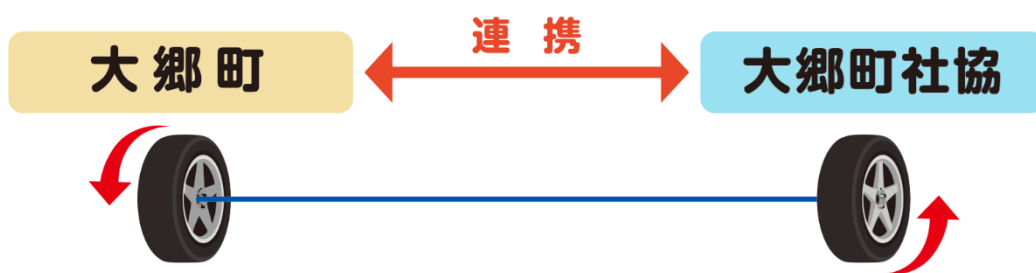
(大郷町地域福祉計画より)

地域福祉活動計画推進目標

- 基本目標1 『気』くばりは人をつなぎ地域をつなぐ
- 基本目標2 みんなでつくろう！お節介の架け橋づくり
- 基本目標3 私の声『届ける』・『届く』・『受け取れる』
- 基本目標4 “魔法の言葉”で笑顔あふれる地域

大郷町社協は大郷町と両輪で事業を進めていきます

【地域福祉計画と地域福祉活動計画の関係イメージ図】



理念やしきみをつくる計画
【地域福祉計画】

住民参加の取り組み
【民間活動の基盤整備等】

具体的な取組を示す計画
【地域福祉活動計画】

↓

「基本理念」の実現

《基本目標1》 『気』くばりは人をつなぎ地域をつなぐ

(地域福祉計画 基本目標1：地域・人をつなぐ仕組み・体制の構築・強化)

『誰もが周囲の人や環境に目を向け、困ったときは「助けて」と頼れる人がいること』、『自分も他者も大切な存在だと実感できること』、『大郷町に暮らす全ての人が、つながりの中でお互いを大切にしながら暮らしていくことができる豊かな地域づくりを目指すこと』、それが大郷町社協の役割だと考えています。

こうした地域を目指し、誰もが地域で孤立することなく、気軽に集い、自分らしく過ごすことができる居場所として、認知症カフェ、ほのぼの会、介護者のつどい、元気アップ教室などを町民の身近な場所で開催しています。

また、一人ひとりの課題に寄り添い、地域の関係機関と連携し、包括的かつ継続的に支援します。自ら「助けて」と声をあげられない人を、地域全体の『気』くばりで様々な関係機関とつなげ、支援の輪が広がる体制づくりを推進します。

《ほのぼの会の様子》



《元気アップ教室の様子》



《こんなことをしたい！と思ったら・・・》

したいこと	利用できる事業	事業一覧頁
身近な場所で自分らしさを見つけよう！	<ul style="list-style-type: none"> ● 男の料理教室 ● 介護者のつどい ● ほのぼの会 ● 認知症カフェ 喫茶ほおずき ● 郷ここプロジェクト (寺カフェ・フォトコンテスト) ● 写経・写仏つどいの場 ● キッチンカー移動傾聴事業 ● お達者サロン 	<p>P 10</p> <p>P 10</p> <p>P 10</p> <p>P 13</p> <p>P 15</p> <p>P 15</p> <p>P 15</p> <p>P 15</p>
仲間と一緒に健康づくりをしたい！	<ul style="list-style-type: none"> ● 元気アップ教室自立体力測定 ● 元気アップ教室ひだまり会 ● 散歩とLINE を楽しむ会 ● 健康づくり体験会 ● ボウリング大会 ● 健康まーじゃん教室 ● 卓球会 	<p>P 14</p> <p>P 14</p> <p>P 14</p> <p>P 14</p> <p>P 14</p> <p>P 15</p> <p>P 15</p>
地域に新しい居場所を作りたい！	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉ネットワーク事業 ● サロン活動等支援 ● つどいの場助成金 	<p>P 13</p> <p>P 15</p> <p>P 15</p>
地域のことを、地域のみんなで考えたい！	<ul style="list-style-type: none"> ● 赤い羽根共同募金 ● 地域歳末たすけあい運動 ● 地区座談会 ● 地域支え合い推進協議体 	<p>P 11</p> <p>P 12</p> <p>P 14</p> <p>P 15</p>
支援してほしい人が手をあげられる地域をつくりたい！	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉体験事業 (車いす体験、白杖体験、認知症サポーター養成講座) ● 総合相談支援 ● 地域ケア会議 ● 認知症初期集中支援チーム ● 生活相談所事業 	<p>P 10</p> <p>P 12</p> <p>P 12</p> <p>P 13</p> <p>P 13</p>

《基本目標2》 みんなでつくろう！お節介の架け橋づくり

(地域福祉計画 基本目標2：地域福祉を担う人材の確保・育成)

「大丈夫?」「手伝おうか?」そんな些細な声かけが、誰かの1日を明るくします。「お節介」は、押し付けるものではなく、ちょっとした勇気で出来る、地域の幸せづくりです。「誰かを気にかける優しい気持ち」が、安心して明るい町を育てます。こうした小さな心配りは、研修や交流の機会を通じて醸成され、地域に広がる第一歩となります。

大郷町社協では、傾聴や見守りを担う人材の育成、サロンやつどいの場のリーダー育成、多世代交流を通じた関係づくりを進めています。また、地域包括支援センターや関係機関と連携し、地域ケア会議や認知症サポーター養成講座などを通じて、住民と専門職が協働できる体制を整えます。

「お節介」の気持ちを持つ住民と、支援の仕組みをもつ大郷町社協が協力することで「声をかけるだけで終わらない」「気づきが支援に繋がる」そんな助け合いが循環する地域づくりがすすんでいきます。「お節介」の心と社協の取り組みが架け橋となり、「助け合いが当たり前に生まれるあたたかな町」を一緒に作っていきましょう。

そして、町民一人ひとりが「ここに住んで良かった」と実感できる未来を次世代へとつなげていきます。

《支え合いフォーラムの様子》



《寺カフェの様子》



《こんなことをしたい！と思ったら・・・》

したいこと	利用できる事業	事業一覧頁
みんなで学んで、支える力を付けたい！ (人材育成)	<ul style="list-style-type: none"> ● 次世代育成事業 ● 福祉体験事業 (車いす体験、白杖体験、認知症サポーター養成講座) ● 地域支え合い講演会・研修会 ● おもちや病院 	P 10 P 10 P 15 P 15
地域で活動してみたい！ (リーダー育成)	<ul style="list-style-type: none"> ● 男の料理教室 ● ボランティアセンター運営 ● 郷ここプロジェクト (寺カフェ、フォトコンテスト) ● お達者サロン 	P 10 P 10 P 15 P 15
誰もが過ごしやすい地域になるよう、みんなで考えたい！	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉体験事業 (車いす体験、白杖体験、認知症サポーター養成講座) ● 地域ケア会議 ● 地区座談会 ● 郷ここプロジェクト (寺カフェ、フォトコンテスト) ● 地域支え合い推進協議体 	P 10 P 12 P 14 P 15 P 15
地域活動、はじめの第1歩をサポートします！	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアセンター運営 ● 地域福祉ネットワーク事業 ● サロン活動等支援 ● つどいの場助成金 	P 10 P 13 P 15 P 15

《男の料理教室の様子》



《基本目標3》 私の声『届ける』・『届く』・『受け取れる』

(地域福祉計画 基本目標3：必要な支援を適切に受けることができる体制の整備・充実)

地域には身体的・精神的・社会的状況の異なる様々な人が生活しており、個人や地域が抱える課題は、多様化・重複化しています。これらの課題をのりこえるためには、地域住民、行政、社協、関係機関がそれぞれの強みを活かし、互いに手をつなぎ協働で解決に向け、取り組む必要があります。

大郷町社協では、生活支援コーディネーターが各家庭を回る「戸別訪問」を実施しています。生活支援コーディネーターは、地域にあるいろいろな人・活動・場所をつなぎ、地域全体の取組みと、身近な活動がうまく協力し合えるようにする役割を担っています。住民のみなさん一人一人の声を聴き、小さな困りごとから少し心が重くなるようなことまで、様々な声をすくい上げ住民同士の支え合いや地域包括支援センターなど専門機関の支援につなげるサポートをしています。

そして、少子高齢化が進む大郷町においては、世代を超えた多職種連携や関係づくりが必要となります。この現状に対して大郷町社協は、様々な社会資源の調整(マネジメント機能)を発揮することが求められます。町内外における多職種・他団体・企業等との横断的、縦断的なつながりを構築し、住民のみなさんが「ここに住んで良かった」と思えるつながりづくりに注力していきます。

《こんなことに困ったら・・・》

お困りごと	利用できる事業	事業一覧頁
困っている人を見て放っておけないと思ったら・・・	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合相談支援 ● 高齢者戸別訪問(包括支援センター) ● 生活相談所事業 ● 生活支援コーディネーター戸別訪問 	P 12 P 12 P 13 P 14
専門職の力が必要になったら・・・	<ul style="list-style-type: none"> ● 訪問介護事業 (ライフサポートおおさと) ● 包括的・継続的ケアマネジメント支援 ● 介護予防ケアマネジメント支援 	P 12 P 12 P 12
みんなで知恵を寄せ集める時は・・・	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域ケア会議 ● 地域支え合い推進協議体 	P 12 P 15

《生活支援コーディネーターの活動の様子》



《ケアマネ・ケアスタッフ研修定例会の様子》



《総合相談支援の様子》



《基本目標4》 “魔法の言葉” で笑顔あふれる地域

(地域福祉計画 基本目標4 : 安全・安心な暮らしの確保)

性別・年齢・収入の多い少ない、障がいの有無等に関わらず、だれもが自分らしく暮らしていくための様々な活動や制度を「ふくし」と呼びます。福祉は、生活に困った人や障がいのあるなど、なんらかの不便さを持つ方々だけが対象ではなく、すべての皆さんに関わることです。

昨今、全国各地で地震や大雨による自然災害が多発しています。大郷町でも東日本大震災や令和元年台風19号の大雨による被害を経験しました。この体験から私たちは「何気ない日常」がとても尊いものであること、平時から近隣、地域とのつながりの大切さを感じたのではないかと思います。

笑顔で交わす「あいさつ」は顔見知りが増える魔法の言葉です。児童の登下校時の「行ってらっしゃい」「おかえり」の声がけは「地域のやさしい眼」となって、防犯や「暮らしの安心・安全」につながり、笑顔が広がっていきます。

大郷町社協は、高齢や障害、生活困窮など社会的な支援を必要としている方に対して、様々な公的な制度やサービスで下支えし、どのような状況・環境であっても「その人がその人らしい暮らし」が営めるよう支援していきます。そして、みなさんが「何気ない日常」を幸せと感じる笑顔あふれる地域で生活できるよう全力でサポートしていきます。

《こども達の登校を見守ってくださる地域のみなさま》



《こんなことに困ったら・・・》

お困りごと	利用できる事業	事業一覧頁
不安を相談したいと思っ たら・・・	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合相談支援 ● 生活相談所事業 ● 生活支援コーディネーター戸別訪問 	P 12 P 13 P 14
不安を少しでも和らげた いと思ったら・・・	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉有償運送事業 ● 福祉用具貸し出し ● 訪問介護事業 (ライフサポートおおさと) ● 権利擁護 ● 軽度生活援助事業 ● 家族介護用品支給事業 	P 10 P 11 P 12 P 12 P 13 P 13
明日の生活に不安を感じ たら・・・	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活安定資金貸付事業 ● 生活福祉資金貸付事業 ● 日常生活自立支援事業(まもりーぶ) ● フードバンク事業 ● 成年後見制度申し立て支援 ● 配食サービス事業 	P 11 P 11 P 11 P 11 P 13 P 13
手を借りたいと思っ たら・・・	<ul style="list-style-type: none"> ● ボランティアセンター運営 	P 10

《ボランティア活動の様子》



《災害ボランティアの様子》



資料編

アンケート調査から見た「地域の声」

調査概要〈成人は抽出調査、中学生は全数調査〉

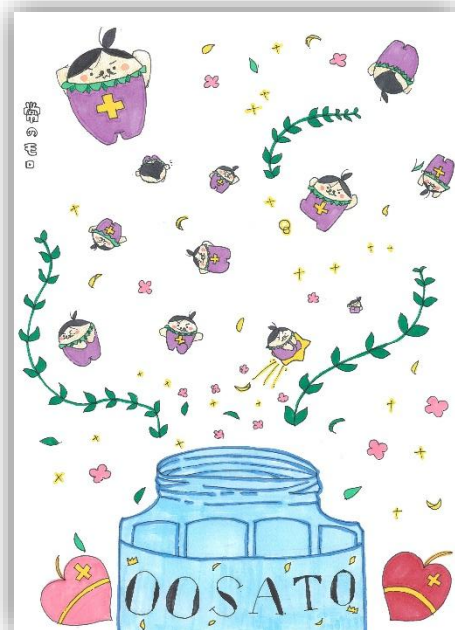
調査目的：この調査は、大郷町社協の活動内容を知っていただき、大郷町に住む皆様の声を活かし、地域福祉づくりにおける今後の方向性を定めることを目的に行ないました。

対象者：行政区長 22 名、民生委員・児童委員 25 名、町老人クラブ会長 14 名、中学生徒 194 名および保護者 174 世帯

内容：地域福祉に関する意識、活動参加状況、地域の良さや課題、今後の地域づくりに関する意見

期間：令和 7 年 10 月 1 日～10 月 16 日

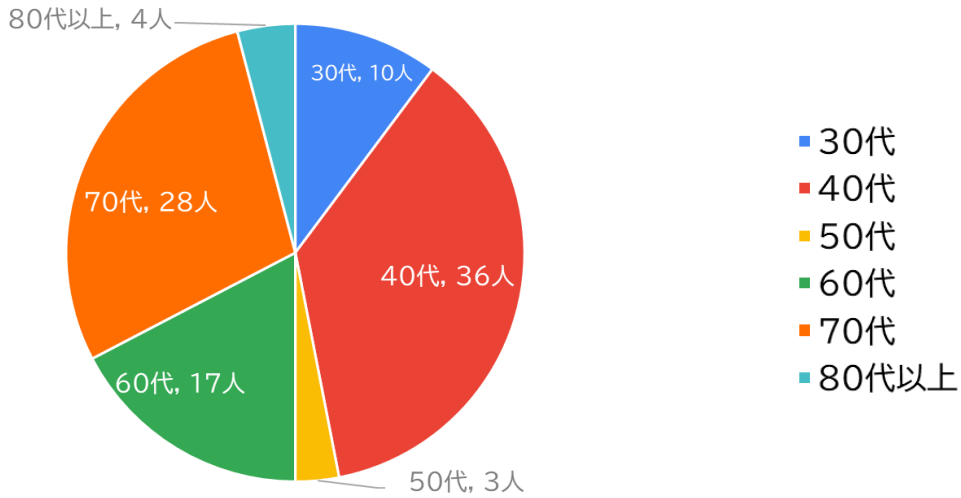
実施方法：成人は WEB 入力・郵送・手渡しによる配付・回収、中学生は学校を通じて WEB 入力



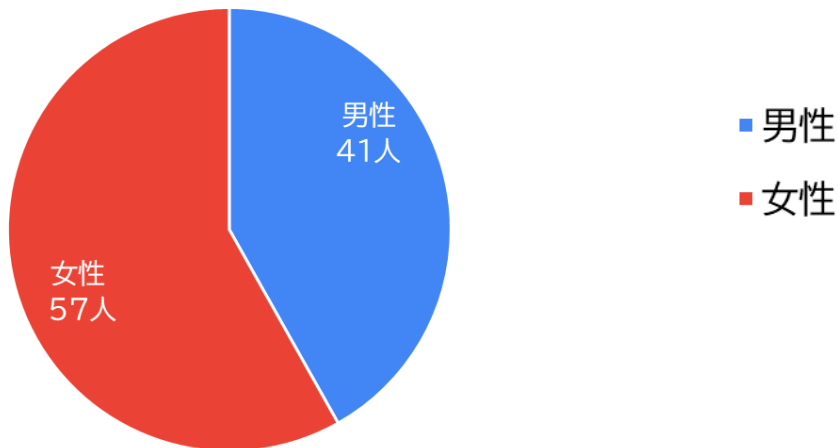
©2025 大郷町 常のモロ#0158

【成人アンケート結果】 回答数：98件

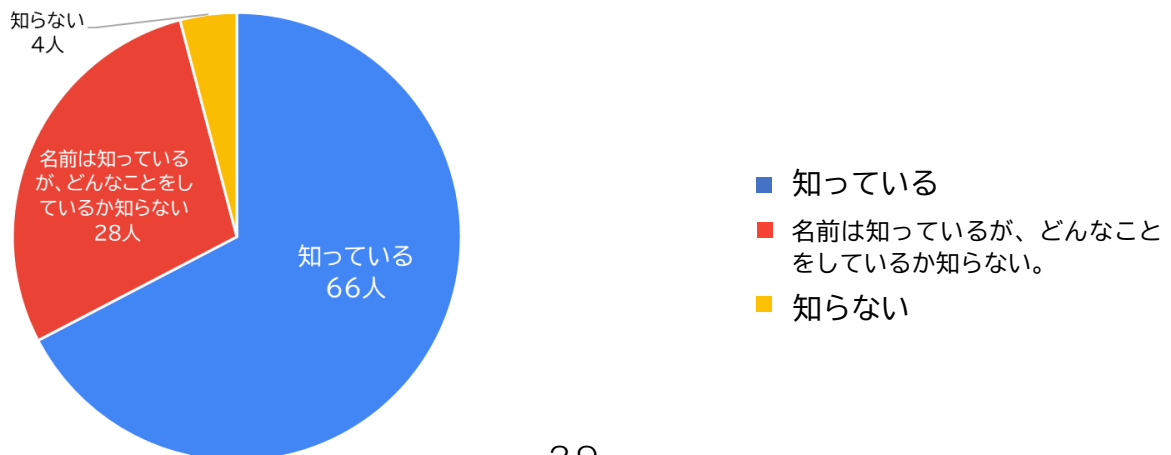
ご年齢を選択ください。



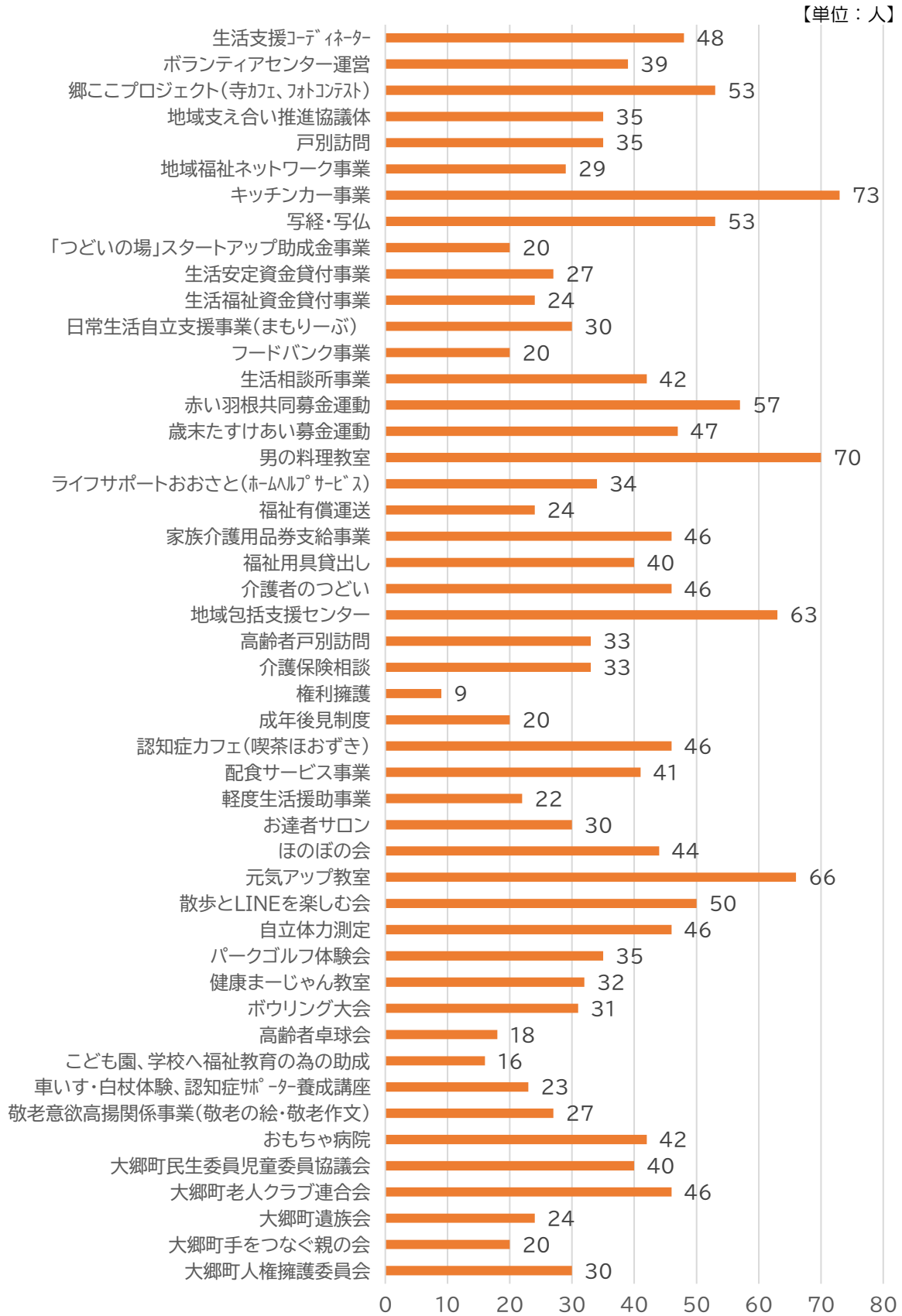
性別を選択ください。



問1：あなたは「大郷町社会福祉協議会」を知っていますか？

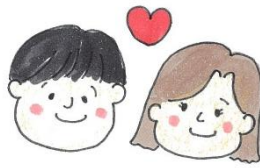
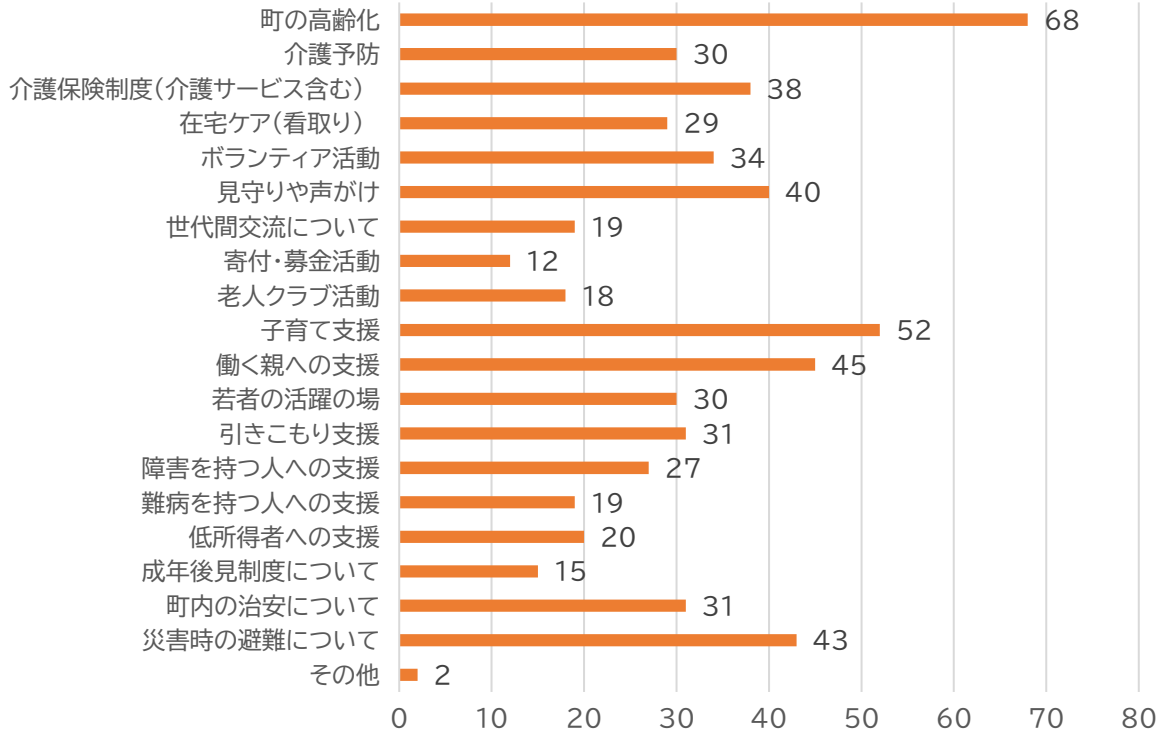


問2:大郷町社会福祉協議会では以下の事業を行っています。
 あなたが知っている事業や活動はありますか？(複数選択可)



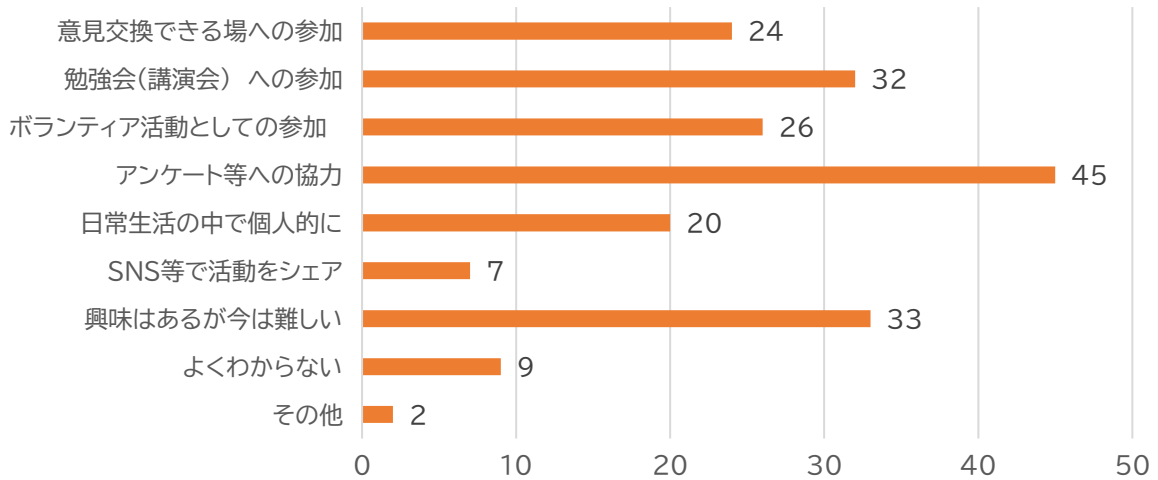
問3:あなたは、次のことについて関心はありますか？(複数選択可)

【単位：人】

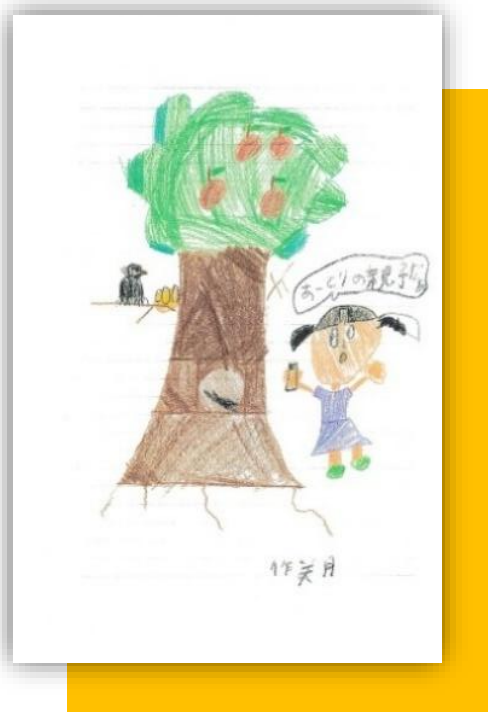
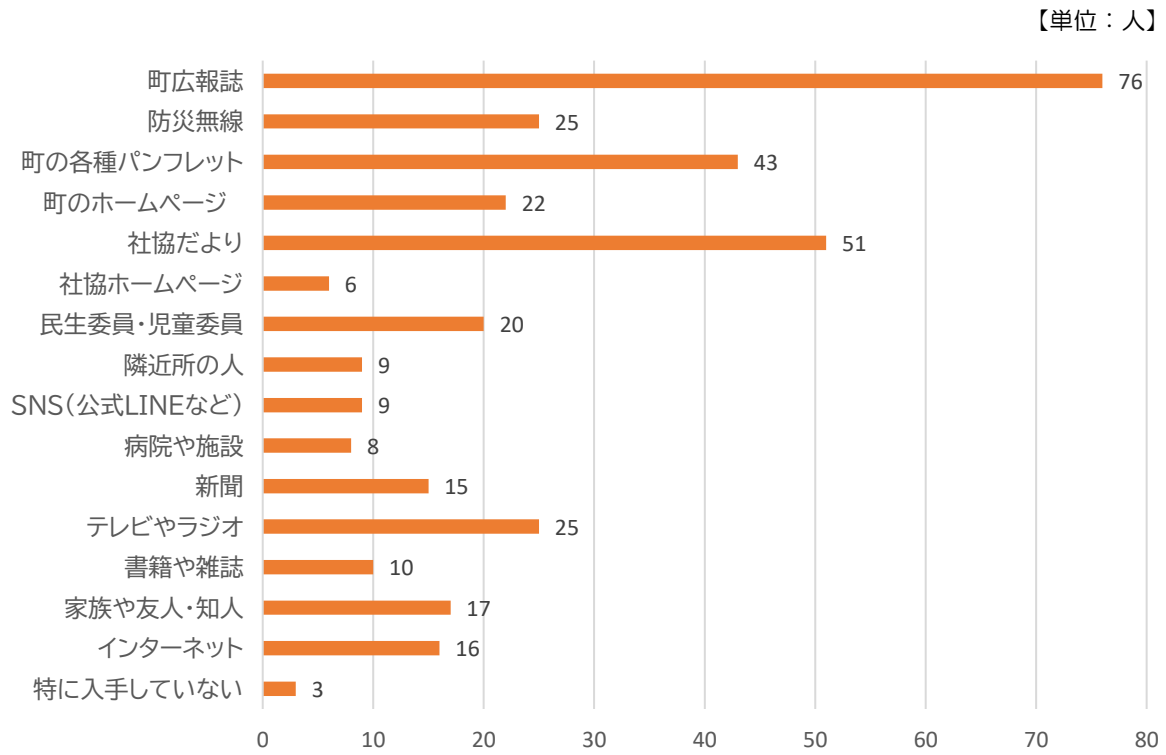


問4:問3で関心がある項目について、あなたが関わるとしたらどのような関わり方を選びますか？(複数選択可)

【単位：人】



問 5:福祉や健康に関する情報を何から入手していますか？(複数選択可)



問6～問9の自由記載欄に寄せられた皆さまの“声”をカテゴリ化し、意見の多かった順に整理しました。大郷町の魅力や暮らしに対する思い、地域への期待などが見えてきました。

問6：大郷町のいいところ・強みは何だと思いますか？（自由記載）

1. 自然・環境（24件）

-みなさんの声-

「自然が多い」「白鳥が来る」
「田園地帯」「景色が良い」「のどか」
「自然災害が少ない」など

町の穏やかな風景や豊かな自然を高く評価する意見が多く見られました。

5. 子育て・教育支援（5件）

-みなさん声-

「子ども医療費 18歳まで無償」
「体操着支給」「給食費無償」
「子育て世帯に力を入れている」など

子育て支援の手厚さを評価する意見がありました。

2. 交通・立地・利便（7件）

-みなさんの声-

「宮城県を中心」「三陸道・東北道が近い」
「アクセスが良い」「通勤が便利」など

地理的な強みを挙げる声が多く、交通の利便性を地域発展の鍵と捉える住民の意識がうかがえました。

6. 農業・特産品・食文化（5件）

-みなさんの声-

「野菜や米が美味しい」「農産物が豊か」「地場産品の美味しさ」
「直売所がある」など

農業の盛んな地域としての誇りが感じられ、食の豊かさを町の魅力とする意見がありました。

3. 人の優しさ・人間関係（6件）

-みなさんの声-

「穏やかな人が多い」「助け合い」
「声掛けや見守りができている」
「他人に無関心ではない」など

地域のつながりや人の温かさを挙げる声が見られ、人との関係性を大切にする住民の姿勢がうかがえます。

7. 福祉・地域支援（3件）

-みなさんの声-

「配食サービス」「社協の訪問」
「介護支援ありがたい」など

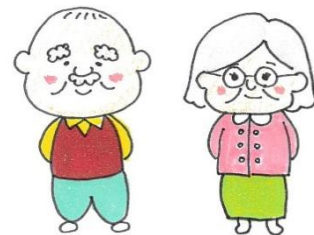
社会福祉協議会など地域の支援体制が住民の安心感につながっていることがうかがえます。

4. 今後への期待・課題指摘（6件）

-みなさんの声-

「強みが無くなった」「特にない」
「環境は良いが他が不安」
「これからの期待」など

現状を冷静に見つめながらも、今後のまちづくりへの前向きな期待を示す声が寄せられました。



問 7:あなたが思う「こういう地域に住みたい」を教えてください。(自由記載)

1. 買い物・医療・交通の利便性 (27 件)

-みなさんの声-

「スーパーがほしい」「病院が近くにある」
「電車やバスがある」「買い物ができる町」
など

最も多かったのは生活利便性を求める意見で、特に交通手段や医療機関、商業施設の整備を望む声でした。

4. 安全・安心な地域 (6 件)

-みなさんの声-

「犯罪が少ない」「街灯が多い」
「安心安全」「災害時に協力できる」など

安心して暮らせる環境を求める声が一定数あり、防災や防犯を意識したまちづくりが求められています。

2. 人とのつながり・助け合い (16 件)

-みなさんの声-

「隣近所が仲良い」「声掛けができる」
「助け合える」「孤立しない地域」など

人とのつながりを重視する意見が多く、「お互いに支え合える」「あたたかい関係を保ちたい」といった温かい関係を築くことを望む声が寄せられました。

5. 自然・環境を活かした地域 (5 件)

-みなさんの声-

「緑豊かな町」「景色が良い」「散歩コース」
「自然を活かしたまちづくり」など

自然の良さを保ちながら便利で快適な生活を送りたいと望む声が多く見られました。

3. 若者・子育て世代 (7 件)

-みなさんの声-

「若い人が住みやすい」「働く場所がある」
「子どもを安心して遊ばせたい」など

子育てや教育環境の充実に加え、若者の定住を促す雇用や環境整備を望む声がありました。



問 8:地域を良くするために自分ができること・取り組んでいること（自由記載）

1. 挨拶・交流（15件）

-みなさんの声-

「あいさつを大事にしている」「声掛け」
「お裾分け」「ご近所と世間話」など

挨拶や声掛けなど、日常の小さな行動を大切に
する姿勢が見られ、地域のつながりづくり
として実践している人が多く見られます。

3. 環境・美化活動（6件）

-みなさんの声-

「ゴミを捨てる」「地域の見回り」
「犬の散歩で防犯も兼ねる」など

環境保全や防犯を意識した取り組みが多
く、身近な活動を通して地域が支えられて
いる様子が見られます。

2. 地域行事・ボランティア活動（12件）

-みなさんの声-

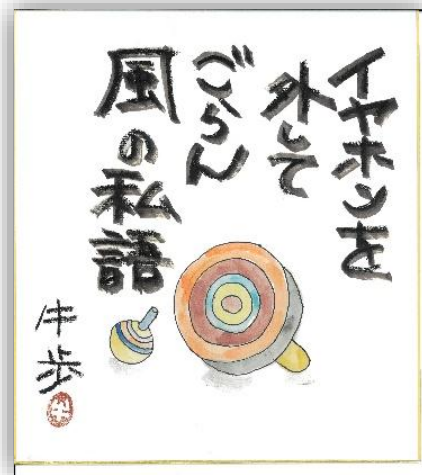
「行事に参加」「イベント参加」「地域役
員として支える」「見守り活動」など

地域行事やボランティア活動に積極的に関
わり、社会貢献したいという意識の高さが
見られます。

4. その他・無回答（14件）

-みなさんの声-

「特にない」「難しい」
「若い世代の声を聞いてほしい」など



問 9:その他ご意見（自由記載）

1. 商業施設・買い物環境の充実（9件）

-みなさんの声-

「スーパーがほしい」「買い物難民が多い」
「移動販売があると良い」など

日常の買い物が困難という意見が多く、
生活利便性の向上が求められています。

4. 集いの場・居場所づくり（4件）

-みなさんの声-

「カフェや子ども食堂」「月1回の交流の
場」「集える場所がほしい」など

これまでの常識にとられない、誰もが
集まれる地域交流の拠点整備が課題として
示されています。

2. 行政・地域運営（5件）

-みなさんの声-

「町民の声を聞いてほしい」「行事が多い」
「福祉の周知不足」「広報誌の見直し」など

広報や情報共有の改善を求める声が多く見
られました。

5. その他（2件）

-みなさんの声-

「社協職員に感謝」
「子どもの居場所がほしい」など

3. 交通・安全対策に関する回答（4件）

-みなさんの声-

「通学路が狭い」「街灯が少ない」
「交通手段が必要」など

生活道路の安全対策や移動手段の確保を求
める意見がありました。



考察

成人では、大郷町社協に対する認知度自体は高めでしたが、「事業内容までは知らない」というご意見も約3割程度ありました。若い世帯に向けた支援・事業が少ないことが影響した結果と考えられ、事業展開及び周知方法等の課題が見えてきました。

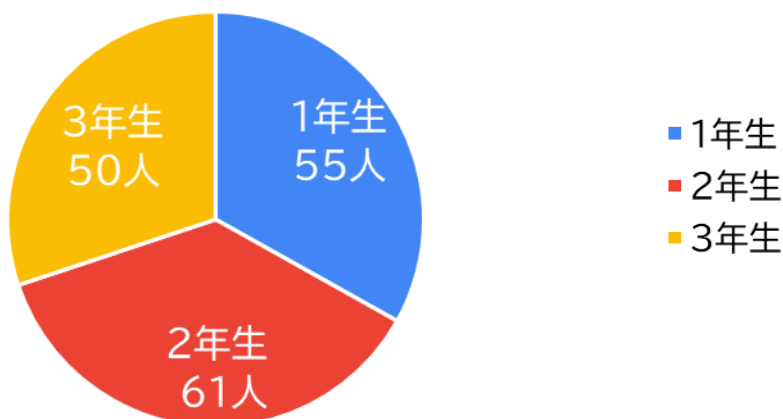
福祉関連の関心事項として、「町の高齢化」が1番の関心を集めました。介護予防への関心が低いという気がかりな結果が見えてきました。介護予防は高齢者に限ったことではなく「いつまでもやりたいことが続けられる生活設計」であり、「自分・家族・地域全体の未来の話」です。

地域活動は、「社会参加」のひとつであり、介護予防に繋がります。住民同士のつながりを深め、安心して暮らせる町を支える大切な要素です。今回、地域活動に対する意識調査で、「意見交換できる場や勉強会（講演会）への参加」など実際に行動に移せると回答した方がいる一方、アンケートなど簡易的な方法を選ぶ方や「興味はあるが今は難しい」と回答する方も多く、地域活動参加に対する敷居の高さも見えてきました。

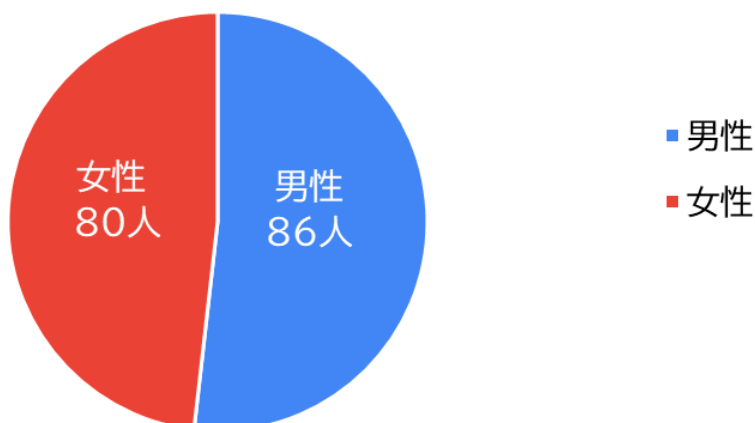
調査結果を踏まえ、今後は全世代で誰もが気軽に参加できるような仕組みや楽しみながら関われる活動づくりを進め、より多くの人に関わりを持てる地域を目指し、尽力していきます。

【中学生アンケート結果】 回答数：166 件

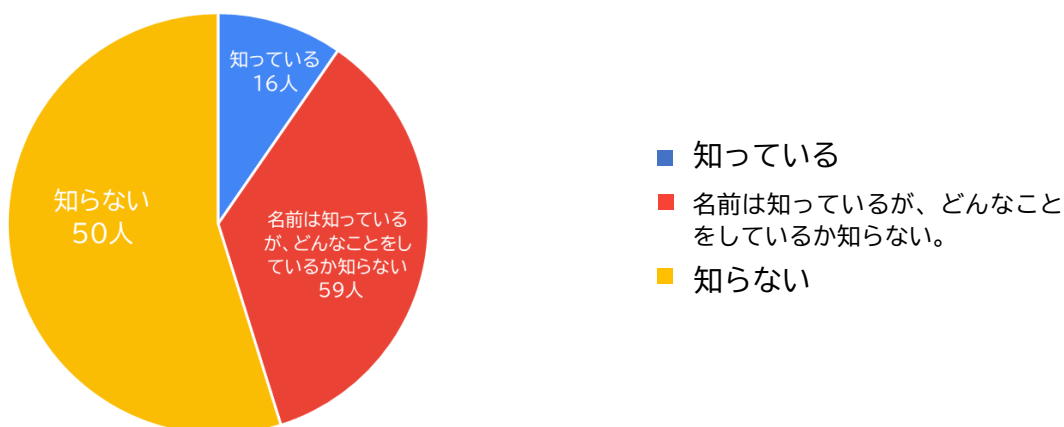
学年を選択してください。



性別を選択してください。

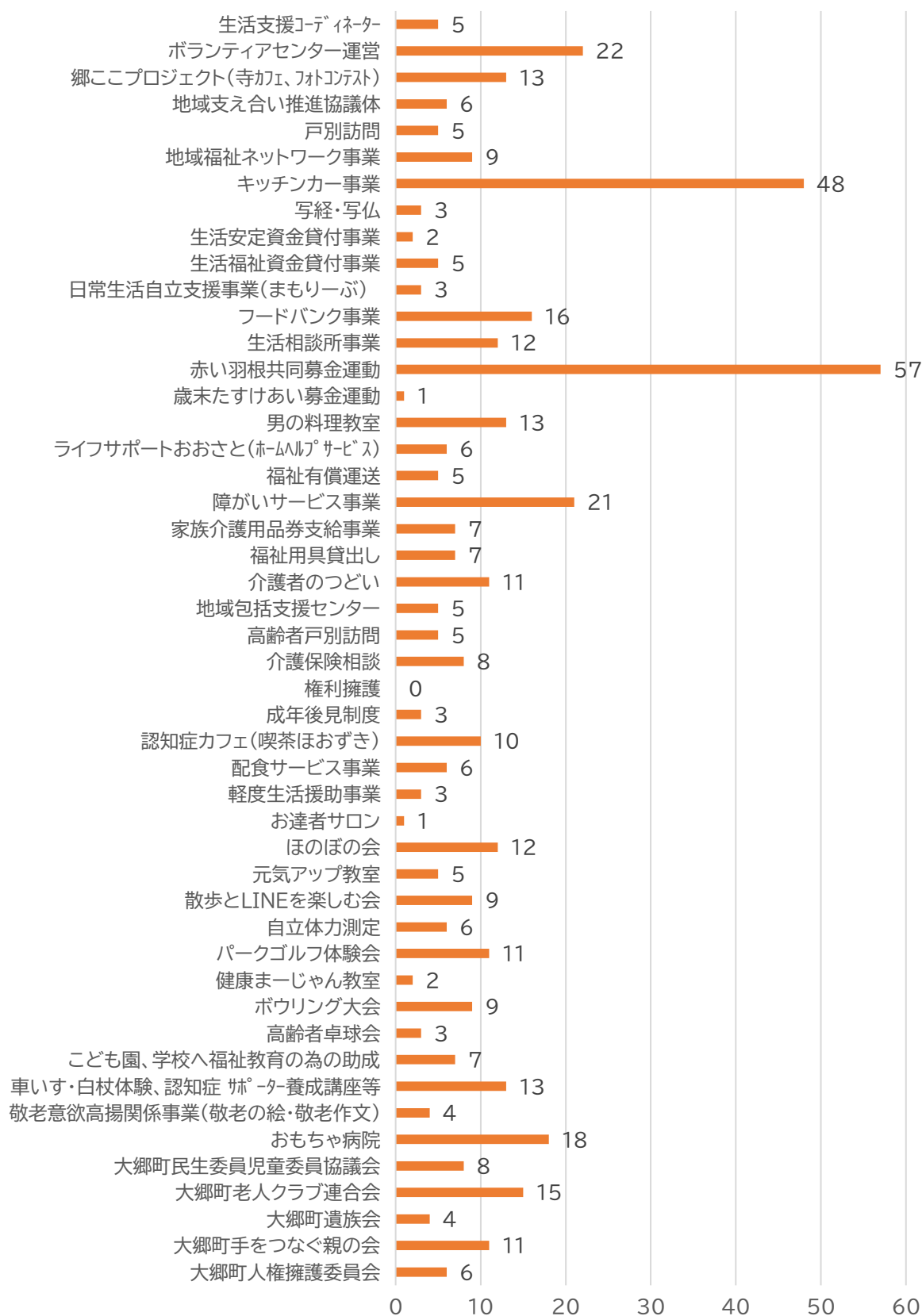


問1：あなたは「大郷町社会福祉協議会」を知っていますか？



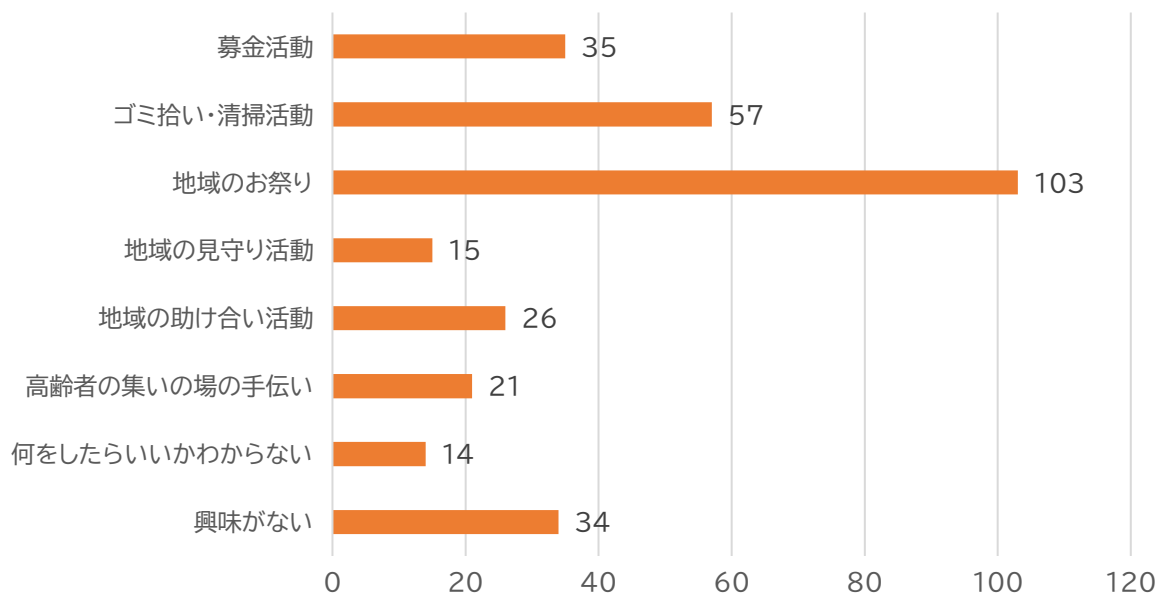
問 2： 大郷町社会福祉協議会では以下の事業を行っています。
 あなたが知っている事業や活動はありますか？(複数選択可)

【単位：人】



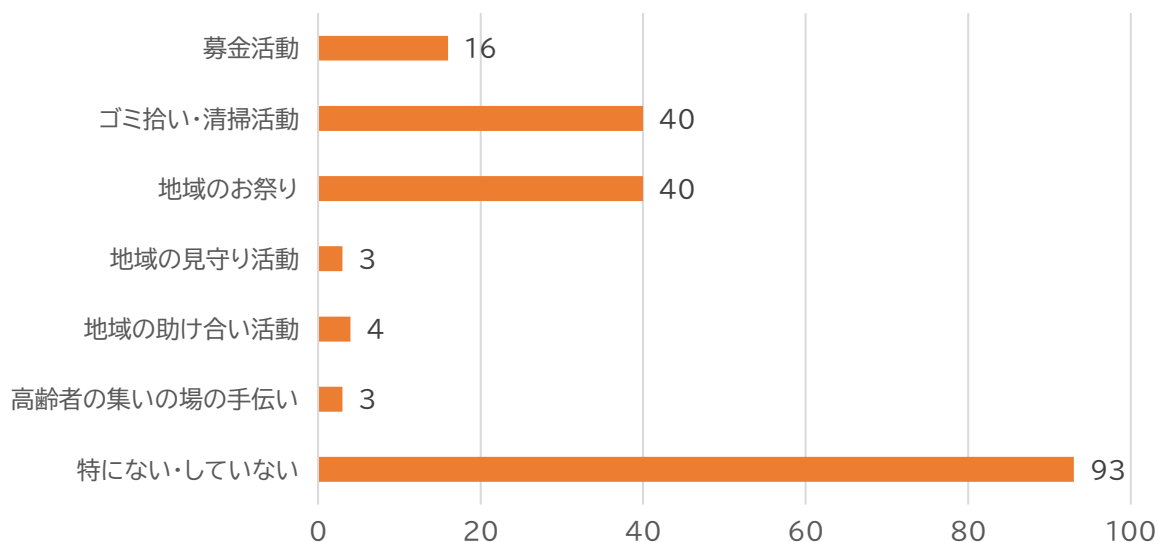
問 3: どんな地域活動に興味がありますか？(複数選択可)

【単位：人】



問 4: すでに取り組んでいることはありますか？(複数選択可)

【単位：人】



※お詫び

今回、問5として問4で「特にない・していない」と回答された方に対し、その理由を伺う設問がありましたが、システムの不具合により回答を得ることができませんでした。そのため、本設問は無回答として取り扱いました。

問6：大郷町のいいところ・強みは何だと思いますか？（自由記載）

1. 自然・環境（66件）

-みなさんの声-

「自然豊か」「空気が美味しい」「緑が多い」
「自然にあふれていて伸び伸び暮らせる」
など

自然環境の良さを挙げる意見が圧倒的に多く寄せられました。

5. 特産・農産物・食（6件）

-みなさんの声-

「モロヘイヤ」「お米」「ずんだ」
「食べ物が美味しい」「食材が豊富」など
地元産品や食文化への誇りが示されました。

2. 人の優しさ・人間関係（20件）

-みなさんの声-

「みんな優しい」「親切」「笑顔で挨拶」
「お年寄りから子どもまで仲が良い」など

人の温かさや助け合い、穏やかな人間関係を評価する記述が多く見られました。

6. 立地・アクセス（4件）

-みなさんの声-

「宮城県真ん中」「富谷市に行きやすい」
「どこの街にもアクセスしやすい」など

交通利便性や地理的中心性を評価する意見がありました。

3. 治安・安心安全（7件）

-みなさんの声-

「治安が良い」「犯罪遭遇率が低い」
「安心して暮らせる」など

安心して生活できる地域という評価が寄せられました。

7. 地域活動・行事（4件）

-みなさんの声-

「行事やお祭りが楽しい」
「地域活動が多い」など

地域交流の機会が多いことを強みとする意見が見られました。

4. 子育て・教育・世代交流（6件）

-みなさんの声-

「給食費が無料」「小中学校が近い」
「子どもがのびのび育つ」など

子育て支援や教育環境の良さに関する評価が寄せられました。

8. 経済・制度面（3件）

-みなさんの声-

「商品券が配られる」「給食費無料」
「薬王堂があって安くて便利」など

町の支援策や生活利便を評価する意見がありました。

9. その他（5件）

-みなさんの声-

「静かなところ」「田舎」「面白い人が多い」
「若い人の意見を聞いていたところ」
「BGがある」「わからない」「ない」など

問7：あなたが思う「こういう地域に住みたい」を教えてください。（自由記載）

1. 生活利便性・買い物環境（20件）

-みなさんの声-

「スーパーがある」「買い物に困らない」
「ショッピングモールがある」など

日常の買い物や娯楽の充実を求める声が多く見られました。

6. 都会的發展・交通利便（11件）

-みなさんの声-

「発展している」「交通の便が良い」
「栄えている」など

都会の便利さを取り入れたいという希望が見られました。

2. 行事・イベント・地域交流（18件）

-みなさんの声-

「お祭りやイベントが多い」「地域同士の
結びつき」「挨拶し合える地域」など

人とのつながりを楽しめる地域を望む意見が多く寄せられました。

7. 環境美化・清潔（8件）

-みなさんの声-

「ゴミがない」「草がない」
「きれいな町」など

景観や清潔さを重視する意見が一定数見られました。

3. 人の温かさ・思いやり（15件）

-みなさんの声-

「みんな優しい」「思いやりがある」
「仲が良い」など

温かい人間関係による安心感を重視す傾向が見られました。

8. 子どもの遊び場・スポーツ施設（7件）

-みなさんの声-

「遊べる場所」「スポーツの町」
「球技ができる場所」など

子どもや若者の活動拠点整備を望む声がありました。

4. 安全・安心・平和（13件）

-みなさんの声-

「治安が良い」「事故が少ない」
「街灯が多い」など

安心安全な町という印象があるようです。

9. その他・無回答（6件）

-みなさんの声-

「特にない」「わからない」
「大郷良くわからない」

5. 自然・環境（12件）

-みなさんの声-

「自然が豊か」「緑が多い」
「静かで落ち着く」など

自然の良さを保ちながら暮らしやすい町を望む声がありました。



問8：問7で答えた地域にするために、自分ができそうなことや今すでに取り組んでいることはありますか？(自由記載)

1. 挨拶・交流の促進 (40件)

-みなさんの声-

「あいさつをする」「声をかける」
「交流を心がける」など

挨拶によるつながりづくりを重視する回答が最も多く見られました。

4. 思いやり・人助け (10件)

-みなさんの声-

「優しくする」「困っている人を助ける」
「席を譲る」など

日常での思いやりの実践があげられました。

2. 清掃・環境美化 (20件)

-みなさんの声-

「ゴミ拾い」「ポイ捨てしない」
「草抜き」「道の清掃」など

身近な環境を守る行動が多くあげられました。

5. 意見・提案 (5件)

-みなさんの声-

「町に意見を送る」「提案する」
「アンケートに回答する」など

まちづくりへの意思表示に関する記述がありました。

3. 地域行事・ボランティア参加 (15件)

-みなさんの声-

「地域イベントに参加」「祭りに積極的に参加」
「ボランティア活動を行いたい」
など

行事を通じて地域を盛り上げたいという意欲が見られました。

6. その他・無回答 (20件)

-みなさんの声-

「特にない」「何もしていない」
「自分にはできない」など



問9：その他ご意見(自由記載)

1. 商業施設・買い物環境の充実（13件）

-みなさんの声-

「スーパーを増やしてほしい」
「カフェや100円ショップがほしい」
「イオンをつかってほしい」など

生活利便性の向上を求める要望が多く寄せられました。

4. 自然・景観整備（3件）

-みなさんの声-

「通学路の草刈りをしてほしい」
「町の自然を生かしてほしい」など

身近な景観維持や活用に関する意見がありました。

2. 交通・安全対策（3件）

-みなさんの声-

「信号や横断歩道を増やしてほしい」
「街灯を増やしてほしい」など

地域の安全を守る環境整備を求める声がありました。

5. 福祉・まちづくりへの意見（3件）

-みなさんの声-

「福祉の取り組みをもっと広めてほしい」
「町民全体で福祉を理解してほしい」など

福祉分野の広報・情報発信の充実を求める声がありました。

3. スポーツ・遊び場の整備（3件）

-みなさんの声-

「サッカー場を作ってほしい」
「球技ができる場所を増やしてほしい」
「バスケットコートがほしい」など

施設整備の要望が見られました。

6. その他・無回答（14件）

-みなさんの声-

「ない」「特にない」など

考察

大郷町社協を半数以上の方が「社協の存在を知らない」もしくは「社協の事業内容までは知らない」と回答しています。問2の各事業に対する認知度調査においても「キッチンカー事業」や「赤い羽根共同募金運動」など全国展開され、日々耳にする機会が多いものに関する認知度が高く、大郷町社協独自の事業に対する認知度は低めという結果になりました。現在の大郷町社協の事業は「高齢者」や「生活困窮者」向けのものが大半を占めていることから、若年層に向けた事業が少ないことが影響したと推察されます。

問3、問4の設問では、地域活動への興味と実際に取り組んでいることを調査しました。「興味はあるが、実際に取り組むというところまで行きついていない」という結果が見えてきました。

今回の結果から、生徒たちがもっている「地域活動に対する意欲」を活かしていくため、その一歩を踏み出すための「体験」を提供できるよう、青少年に向けた事業展開も検討していきたいと考えます。

大郷町地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設 置)

第1条 この委員会は、社会福祉法人大郷町社会福祉協議会（以下「本会」という。）定款の規定にもとづき設置する。

(目 的)

第2条 委員会は、本会会長の諮問に応じ、大郷町地域福祉活動計画の策定に関する総合的な企画、調査及び審議を行うことを目的とする。

(委 員)

第3条 委員会は10名以内の委員をもって構成する。

2 委員会の委員は、学識経験者・社会福祉団体の代表・行政・宮城県社会福祉協議会・その他の関係者のなかから本会会長がこれを委嘱する。

3 委員の任期は、委嘱の日から大郷町地域福祉活動計画の策定完了日までとする。

(委員長及び副委員長)

第4条 この委員会に委員の互選により、委員長及び副委員長をそれぞれ1名置く。

2 委員長は、委員会の会務を統括し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(会 議)

第5条 委員会は、委員長が招集しその議長となる。

(作業部会)

第6条 委員会に作業部会を置くことができる。

(庶 務)

第7条 委員会の庶務は、本会事務局において担当する。

(費用弁償)

第8条 委員会の委員に、予算の範囲内で費用弁償を支給することができる。

(雑 則)

第9条 委員会の委員長は、必要と認められるときは、関係者に対し、委員会に出席して、意見の聴取、説明その他資料の提出等を求めることができる。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、本会会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成8年4月1日から施行する。

この要綱は、令和7年9月1日から施行する。

《大郷町地域福祉活動計画策定のプロセス》

《策定委員会》

回数	開催日・場所	協議・作業内容
第1回	令和7年9月16日 粕川地区防災コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画策定の趣旨・目的について ● これまでの経過報告 ● 協議 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画の「基本目標」について ・地域福祉活動計画の「表題」について ・住民アンケートの実施について ・策定スケジュールについて
第2回	令和7年12月15日 粕川地区防災コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域福祉活動計画」中間報告 ● これまでの経過報告 ● 協議 <ul style="list-style-type: none"> ・前回との変更点について ・策定委員からの意見に対する回答 ・住民アンケートの実施について
第3回	令和8年2月16日 粕川地区防災コミュニティセンター	<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域福祉活動計画」最終案報告 ● 協議 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動計画最終案について

《作業部会》

回数	開催日・場所	協議・作業内容
第1回	令和7年6月16日 大郷町社協事務所	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画策定の意義・目的について説明(講義) ● 自分の仕事紹介(各自発表)
第2回	令和7年7月16日 大郷町社協事務所	<ul style="list-style-type: none"> ● 「地域福祉活動計画とは」(講義) ● 基本目標の検討(グループワーク)
第3回	令和7年8月27日 大郷町社協事務所	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本目標の決定 ● キャッチフレーズの検討 ● 「住民の声」の集約方法について
第4回	令和7年9月24日 大郷町社協事務所	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1回地域福祉活動計画策定委員会の報告 ● 策定委員からの提案内容の確認及び検討 ● 愛称(表題)の再検討について ● アンケート調査について(内容/スケジュール/回収方法/集計作業/他)

第5回	令和7年11月12日 大郷町社協事務所	● 地域福祉活動計画の「中間案」について検討
第6回	令和8年1月16日 大郷町社協事務所	● 第2回地域福祉活動計画策定委員会の報告 ● イラストの応募状況について ● 地域福祉活動計画の「概要版」について検討

《事務局》

回数	開催日・場所	会議事項
第1回	令和7年4月18日 大郷町社協会議室	● 地域福祉活動計画策定の目的の共有 ● 策定メンバー選定 ● 計画策定のポイント、計画作成までの期間、計画の周知方法について ● 内部職員への研修会(作業部会)の実施について
第2回	令和7年5月8日 大郷町社協相談室	● 策定スケジュール案作成 ● 作業部会の進め方について(第1回の内容検討) ● 策定に向けた体制の検討(有識者の招集・予算など)
第3回	令和7年5月15日 大郷町社協相談室	● 前回の内容の振り返り ● 地域福祉活動計画の目的について ● 6月16日の作業部会について ● 地域福祉活動計画の本文構成について ● 今後の策定スケジュールについて
第4回	令和7年5月20日 大郷町社協相談室	● 地域福祉活動計画の策定方針について ● 策定委員会の構成について
第5回	令和7年7月29日 大郷町社協相談室	● 要綱について ● 策定委員メンバー(案)について ● 8月27日の第3回作業部会の開催に向けて
第6回	令和7年8月20日 大郷町社協相談室	● 策定委員会へ提出する案・骨組について ● 基本目標(案)の再検討
第7回	令和7年9月3日 大郷町社協相談室	● キャッチフレーズの候補再検討 ● アンケートの内容・対象者等の検討
第8回	令和7年9月9日 大郷町社協相談室	● 基本目標の原案について ● 第1回策定委員会開催に向けた打ち合わせ

第9回	令和7年10月8日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業一覧の内容確認 ● 基本目標に併記する事業の表記について ● 愛称(表題)について ● アンケート集計について ● 挿絵のイラストボランティア募集について ● 冊子構成の確認、予算について ● 今後のスケジュールの確認
第10回 第11回 第12回	令和7年10月24日 令和7年11月4日 令和7年11月25日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画のレイアウト・書体・フォーマットなどの検討
第13回	令和7年12月2日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画のレイアウト・書体・フォーマットなど修正案の再検討 ● 第2回策定委員会開催に向けた打ち合わせ
第14回	令和7年12月19日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画のレイアウト・書体・フォーマットなど修正案の再検討 ● 第2回策定委員会で出た意見の共有、検討
第15回	令和8年1月8日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画概要版の検討 ● 冊子構成の確認、予算について ● 作業部会へ向けた打合せ
第16回	令和8年1月15日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画のレイアウト(挿絵)の検討 ● 地域福祉活動計画概要版の検討 ● 冊子構成の確認、予算について
第17回	令和8年1月22日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画のレイアウト(挿絵)の検討 ● 地域福祉活動計画概要版の検討
第18回	令和8年1月30日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画のレイアウト(挿絵)の検討 ● 地域福祉活動計画概要版の検討 ● 第3回策定委員会開催に向けた打合せ
第19回	令和8年2月5日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 表紙案の検討 ● 第3回策定委員会開催に向けた打合せ ● 予算の変更について
第20回	令和8年3月3日 大郷町社協相談室	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉活動計画最終確認 ● 地域福祉活動計画概要版最終確認

大郷町地域福祉活動計画策定委員会

[敬省略]

No.	氏名	分野	備考
1	西塚忠元	大郷町行政区区長会代表	副委員長
2	高橋鉄雄	元民生委員児童委員協議会会長	
3	八嶋大輔	大郷中学校PTA会長	
4	本間照雄	地域福祉研究所主宰	委員長
5	小野純一	大郷町役場保健福祉課課長	
6	武藤哲哉	宮城県社会福祉協議会地域福祉部参事兼共生社会推進課長 兼 みやぎボランティア総合センター所長	
7	大塚潮	大郷町社会福祉協議会事務局次長兼地域包括支援センター 所長兼ライフサポートおおさと所長	

大郷町地域福祉活動計画作業部会

No.	氏名	分野
1	鎌田光一	大郷町社会福祉協議会 事務局長
2	大塚潮	大郷町社会福祉協議会事務局次長兼地域包括支援センター所長 兼ライフサポートおおさと所長
3	伊藤美保	大郷町社会福祉協議会 福祉活動専門員
4	庄司香奈枝	大郷町社会福祉協議会 福祉活動専門員
5	蜂谷頼子	大郷町社会福祉協議会 福祉活動専門員
6	千田まさえ	大郷町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター
7	及川明美	大郷町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター
8	金須健	大郷町社会福祉協議会 事務員
9	大槻由美子	ライフサポートおおさと サービス提供責任者
10	高橋久美恵	大郷町地域包括支援センター 主任兼主任介護支援専門員
11	佐藤正子	大郷町地域包括支援センター 看護師
12	雫石真利江	大郷町地域包括支援センター 社会福祉士

事 務 局

No.	氏 名	分 野
1	鎌 田 光 一	大郷町社会福祉協議会 事務局長
2	伊 藤 美 保	大郷町社会福祉協議会 福祉活動専門員
3	蜂 谷 頼 子	大郷町社会福祉協議会 福祉活動専門員
4	及 川 明 美	大郷町社会福祉協議会 生活支援コーディネーター
5	雫石真利江	大郷町地域包括支援センター 社会福祉士

冊子内の挿絵のご協力をいただいた方々

No.	氏 名
1	佐藤 信一 様
2	赤間 友綺 様
3	赤間 咲月 様
4	古川 麻喜 様
5	古川 萌衣 様
6	坂井 純也 様
7	パソネム もちもちピノ 様
8	パソネム かわうそ隊長 様



大郷町社協
公式キャラクター
ハーミー

編集発行

社会福祉法人大郷町社会福祉協議会

〒981-3502 宮城県黒川郡大郷町粕川字東長崎 31 番地の 7

TEL 022-359-2753 URL <https://oosato-syakyo.or.jp>

発行年月日

令和 8 年 3 月

